資料２

公園予定地および周辺地域の現状分析

平成 29 年 1 月 25 日

ー　目次　ー

１．地形の骨格構造、景観 1
２．津波被害状況（建物等） 4
３．歴史、文化的環境 5
４．双葉町、浪江町復興まちづくりイメージ 7
５．災害復旧、復興関連事業 9

１．地形の骨格構造、景観

＜地形の骨格構造＞

◆公園予定地は南北を丘陵に挟まれた低地に位置する。

◆公園予定地中央付近に、大平山、諏訪神社が位置する丘陵が伸びる。

◆公園予定地の北を請戸川、中央を前田川が西から東に流れ、太平洋に注ぐ。

＜景観、眺望＞

◆丘陵南端高台から、東方に双葉町中野地区、郡山地区の海岸、太平洋（写真１）、南方にマリーンハウスふたば（写真１）、丘陵樹林越しに福島第一原子力発電所の排気筒を望むことができる（写真２）。そして、西方には阿武隈山地の稜線がなだらかに連なる（写真３）。

◆公園予定地から北方には、かつての水田が広がる中に請戸小学校を望むことができる（写真４）。

■　諏訪神社参道途中の高台より東方、南方、西方を望む

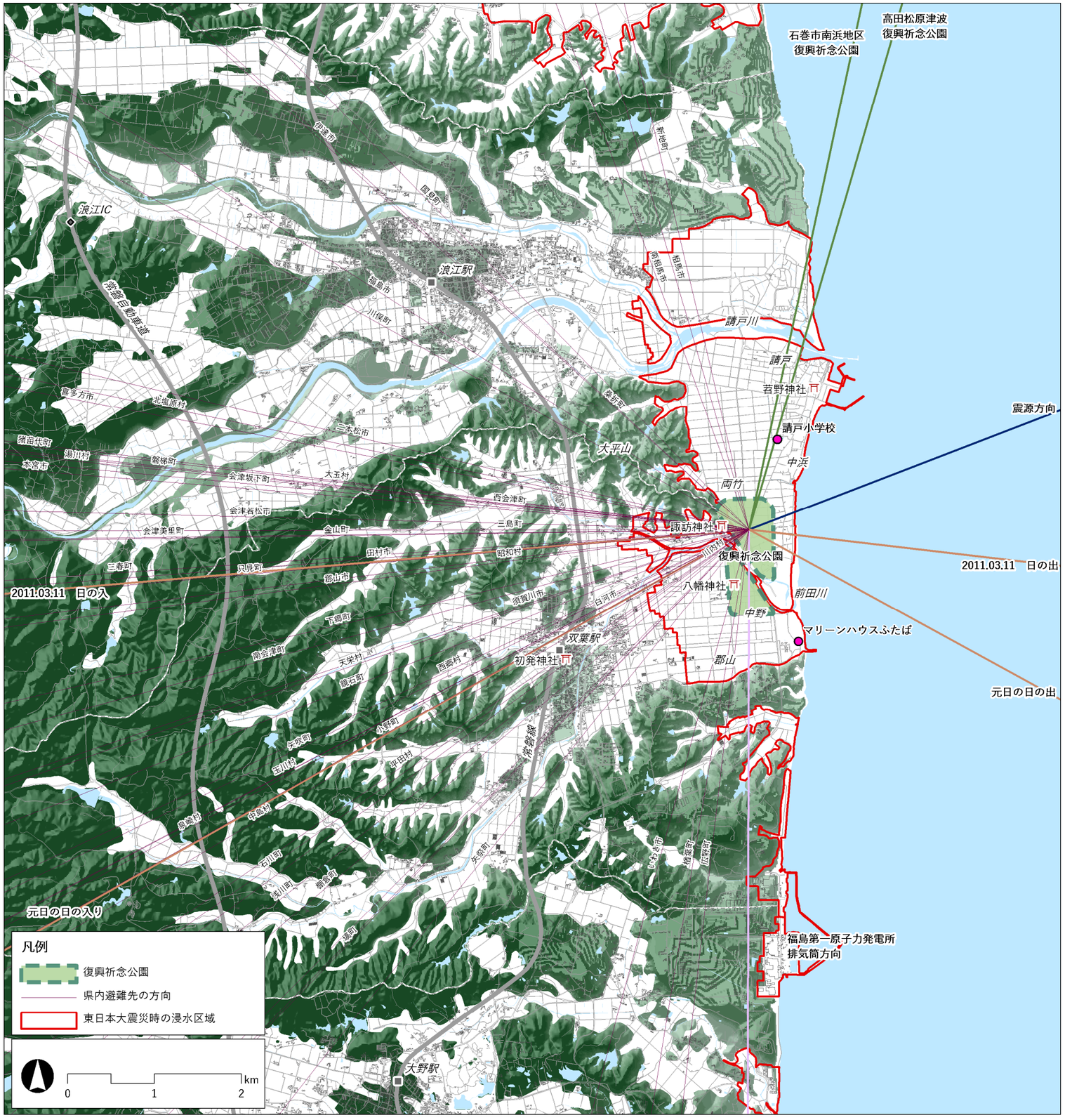
写真１　前田川河口付近の双葉海岸、マリーンハウスふたば、奥に広がる太平洋

写真２　丘陵部樹林越しに望む、福島第一原子力発電所の排気筒

写真３　西方への眺めにおいてスカイラインを形成する阿武隈山地の山稜線

■　町道両竹請戸線より北方を望む

写真４　公園予定地北側に広がるかつての水田の中に建つ請戸小学校



[図１ 出典]道路データ：国土地理院「基盤地図情報　基本項目」、建物データ：国土地理院「災害計画復興基図」、標高データ：国土地理院「基盤地図情報　数値標高モデル(10m メッシュ)」、浸水区域：国土交通省都市局「復興支援調査アーカイブ」

図１　地形の骨格構造、景観

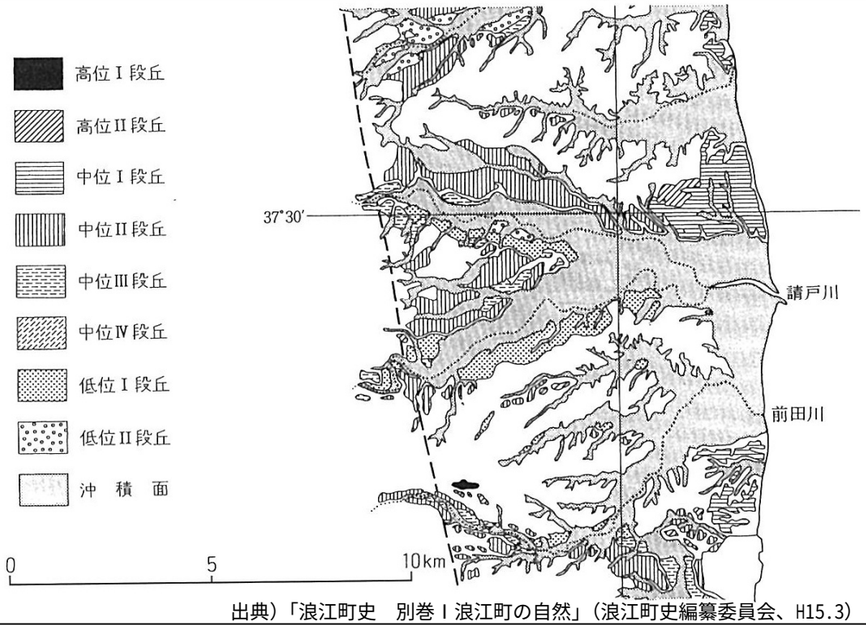
◆公園予定地は沖積面に立地し、南北を段丘に挟まれる。（参考：地形（段丘区分図））

◆丘陵地の地質はシルト岩、砂岩、沖積面は砂、泥、礫で構成される。（参考：表層地質）

◆震災前の植生は、丘陵にはアカマツ群落、低地部は主に水田が広がり、海岸および内陸に緑の多い住宅地が点在する。（参考：植生図（被災前））

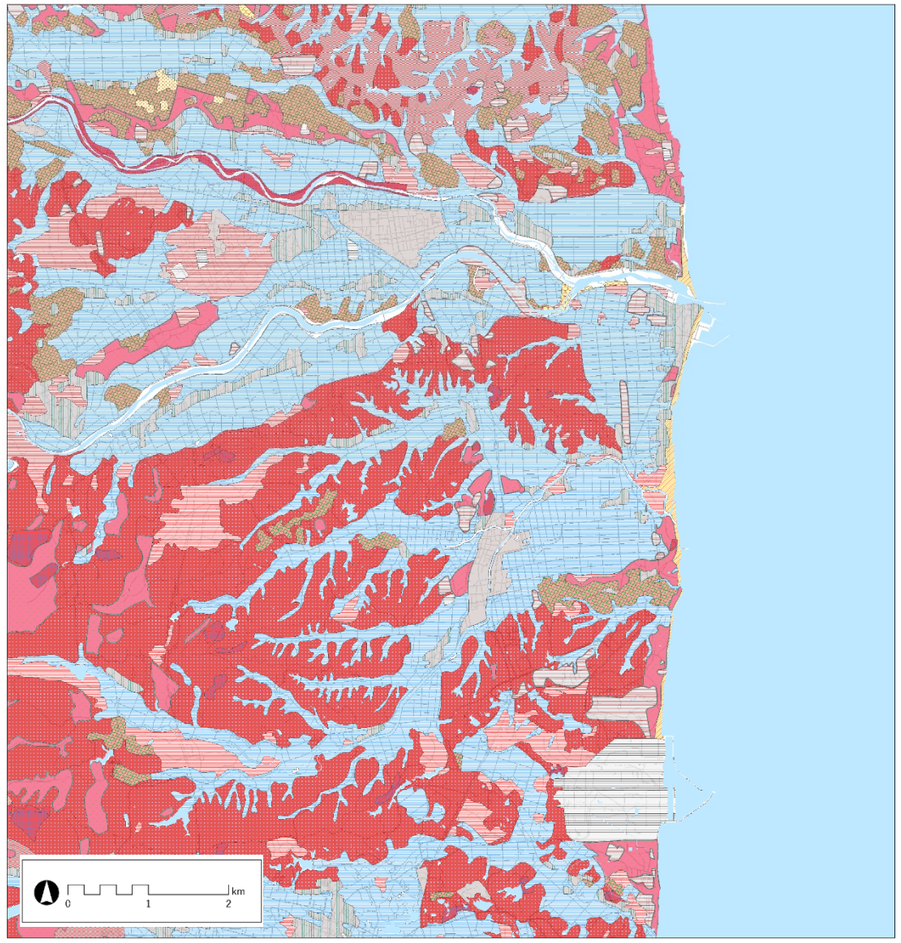
◆潜在自然植生としては、丘陵部はｼｷﾐ-ﾓﾐ群集、低地部はｵﾆｽｹﾞ-ﾊﾝﾉｷ群集、ｲﾉﾃﾞ-ﾀﾌﾞﾉｷ群集が多くを占める。（参考：潜在自然植生図）

【参考：地形（段丘区分図）】



出典）「浪江町史　別巻Ⅰ浪江町の自然」（浪江町史編纂委員会、H15.3）

【参考：植生図（震災前）】

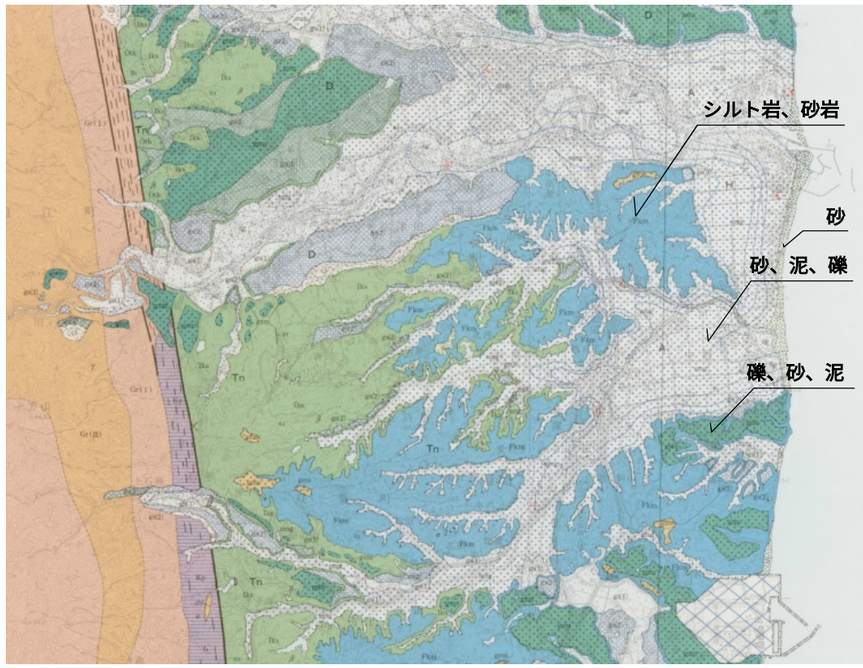


凡例

- 5066 伐跡群落
- 7002 コナラ群落
- 7036 伐跡群落
- 7081 アカマツ群落
- 8008 ヨシクラス
- 8040 砂丘植生
- 9002 常緑針葉樹植林
- 9064 落葉果樹園
- 9066 桑園
- 9072 畑地雑草群落
- 9091 牧草地、ゴルフ場
- 9098 水田雑草群落
- 9902 市街地
- 9905 緑の多い住宅地
- 9915 工場地帯
- 9919 造成地

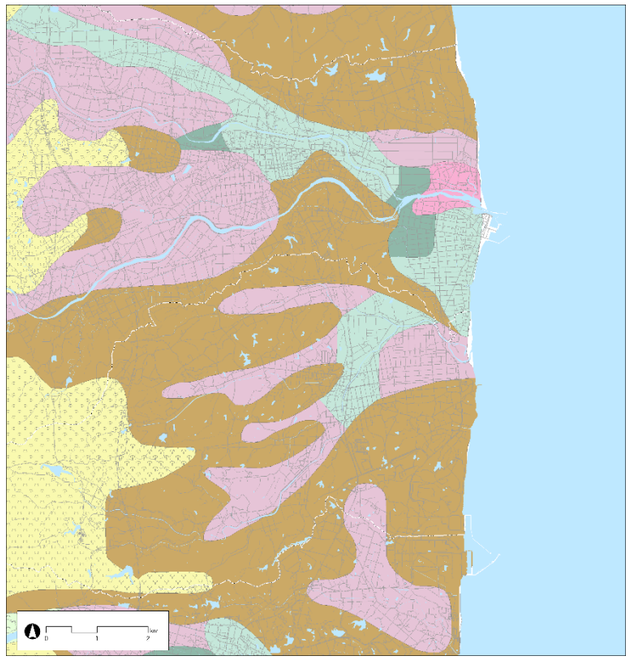
出典）1/50,000 植生図「第 2-5 回植生調査重ね合わせ植生」GIS データ（環境省生物多様性センター）を使用し、作成・加工（http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-025.html?kind=vg）

【参考：表層地質】



出典）「1/50,000 土地分類基本調査（地層地質）」「浪江・磐城富岡」福島県（平成 4 年）

【参考：潜在自然植生図】



凡例

ヤブツバキクラス域

- イノデ-タブノキ群集
- シキミ-モミ群集
- ムクノキ-エノキ群集
- オニスゲ-ハンノキ群集

ブナクラス域

- モミ-イヌブナ群集、アブラツツジ-イヌブナ群集、クリ-コナラ群集、他
- タマブキ-ケヤキ群集、ヤマタイミンガサ-サワグルミ群集
- ウラギククラス（塩沼地植生）

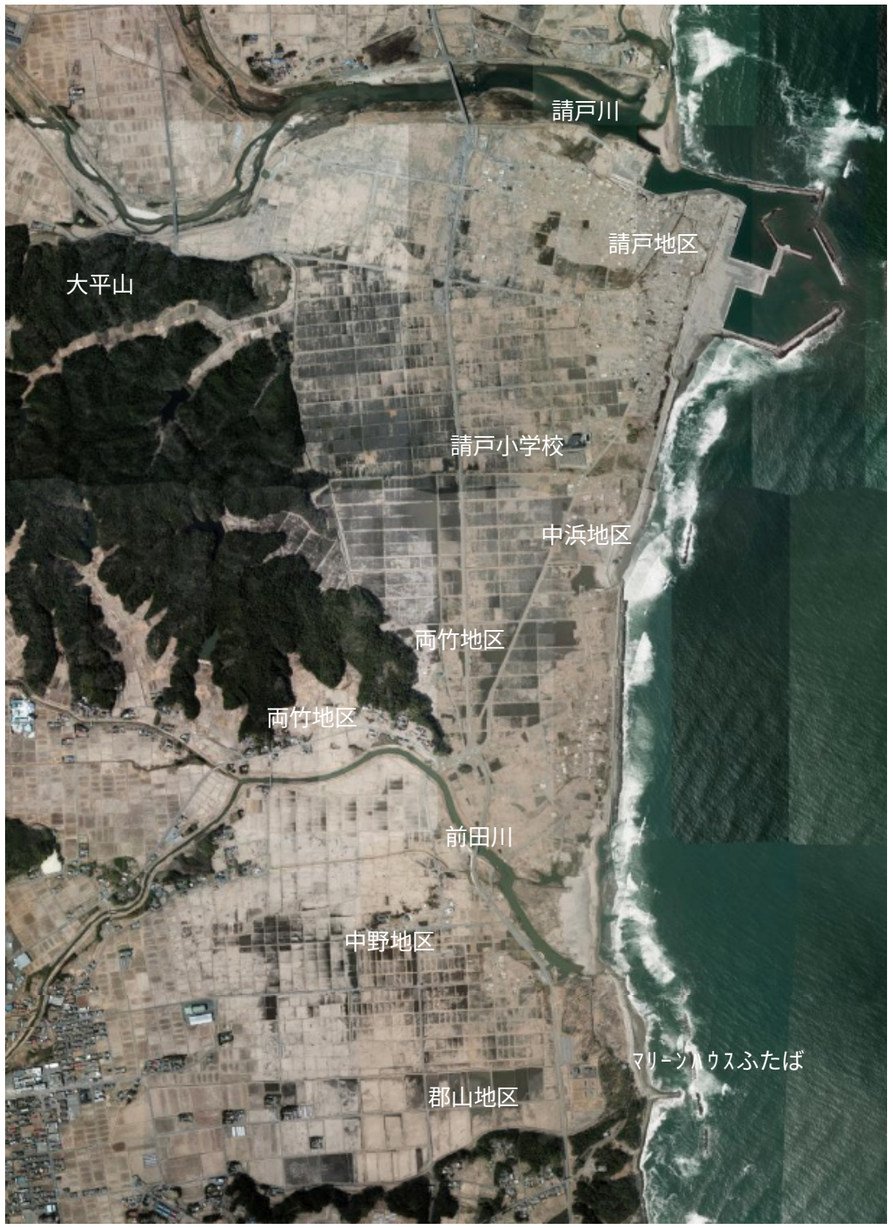
資料）「日本植生誌　東北　東北地方潜在自然植生図」（至文堂、宮脇昭　編著、H4.3）

【参考：震災前後航空写真】

＜震災前＞◆丘陵には樹林が展開し、低地は基本的に水田が広がる。請戸川の河口部に請戸地区が展開し、海岸沿いに中浜地区、内陸部に両竹地区、中野地区の集落が位置する。

双葉町・浪江町沿岸部の様子（2002）

出典：「空中写真」（国土地理院）（http://mapps.gsi.go.jp/）をもとに作成



双葉町・浪江町沿岸部の様子（2012）

出典：「東日本大震災後正射画像」（国土地理院）（http://www.gsi.go.jp/BOUSAI/h23_tohoku.html）をもとに作成

２．津波被害状況（建物等）

◆公園予定地及び周辺地域の建物は、津波によりほとんどが全壊（流出または撤去）となった[1)]。（図２）（写真１）
◆低地の苕野神社、八幡神社（写真２）も津波被害を受け、丘陵に位置していた諏訪神社は地震（余震）により倒壊した。（写真３）
◆一方、丘陵部南側、前田川左岸の両竹地区の住宅は、一部損壊、半壊等の被害であり、建物が現存している[1)]。（写真４）
◆また、津波被害を受けた、請戸小学校（写真５）、マリーンハウスふたば（写真６）の建物が現存する。

写真１　津波により大きな被害を受けた沿岸部の市街地

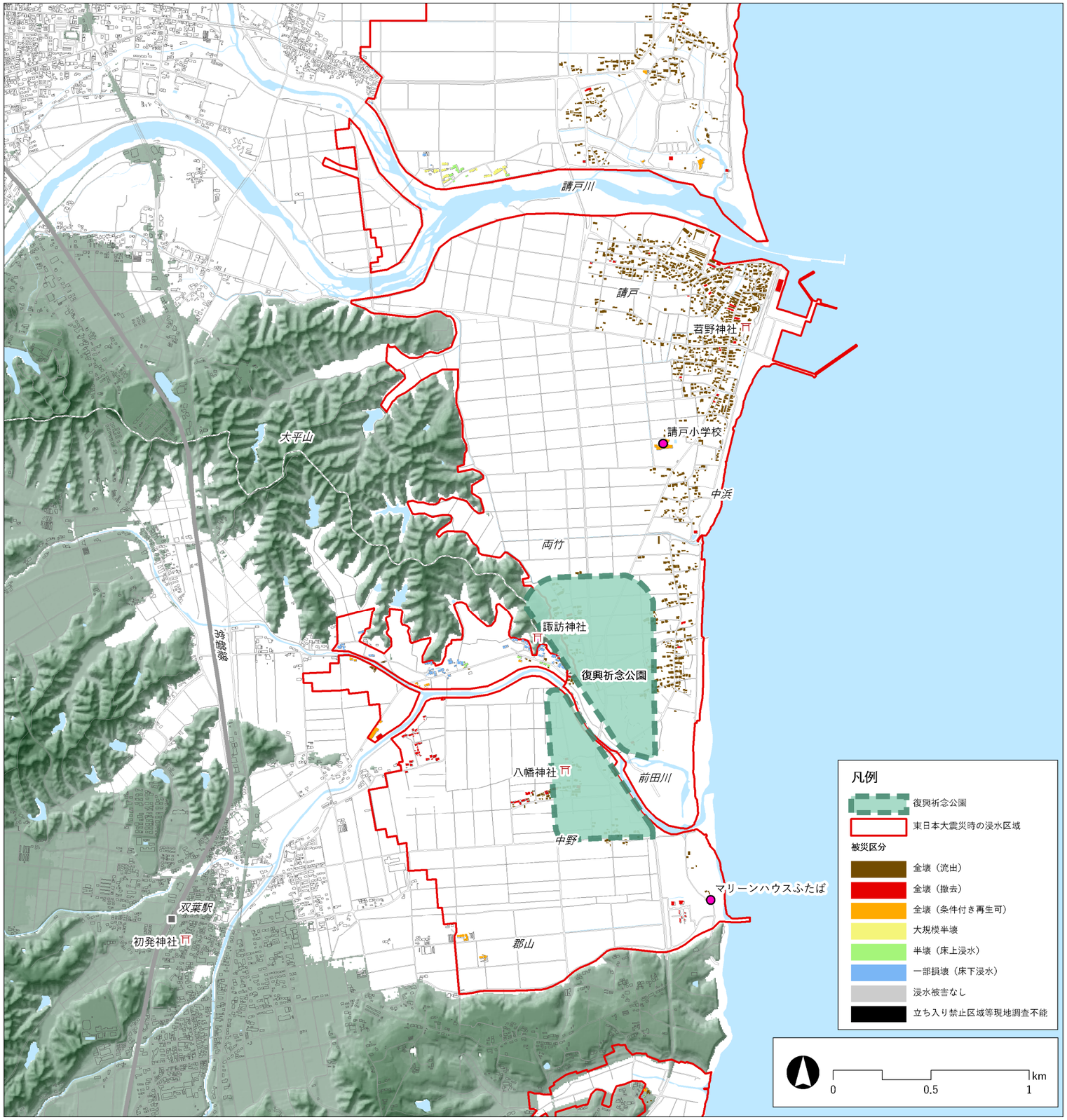
写真２　津波により被害を受けた八幡神社

写真３　地震（余震）で倒壊した諏訪神社

写真４　津波後も残った、丘陵と前田川に挟まれた、古くからの集落環境

写真５　請戸小学校

写真６　マリーンハウスふたば



[図２　資料]道路データ：国土地理院「基盤地図情報　基本項目」、建物データ：国土地理院「災害計画復興基図」、標高データ：国土地理院「基盤地図情報　数値標高モデル(5m メッシュ)」、浸水区域：国土交通省都市局「復興支援調査アーカイブ」、建物被災状況：国土交通省都市局「東日本大震災による被災現況調査業務（福島２）報告書」

図２　津波被害状況（建物等）

1）資料：「東日本大震災による被災現況調査業務（福島２）報告書」（国土交通省都市局、平成 24 年 3 月）

３．歴史、文化的環境

◆丘陵部の末端部には、多くの文化財が分布している[1)]。
◆諏訪神社が位置する丘陵の末端部には、泉田家の家屋、土蔵等が立地し、歴史的環境が展開している。（写真１）
◆浪江町請戸地区の苕野神社（写真２）では安波祭で行われる「浜下り潮水神事」の際に、請戸の田植踊（写真３）、樽神輿の浜下り（写真４）等が行われていた[2)]。
◆双葉町長塚の初発神社では、社殿の新築や屋根の葺き替えなどには、中野の海岸まで浜下りが行われた（写真５）。浜に下り、潮水によって、神霊の浄化と再生をおこなうものである[3)]。

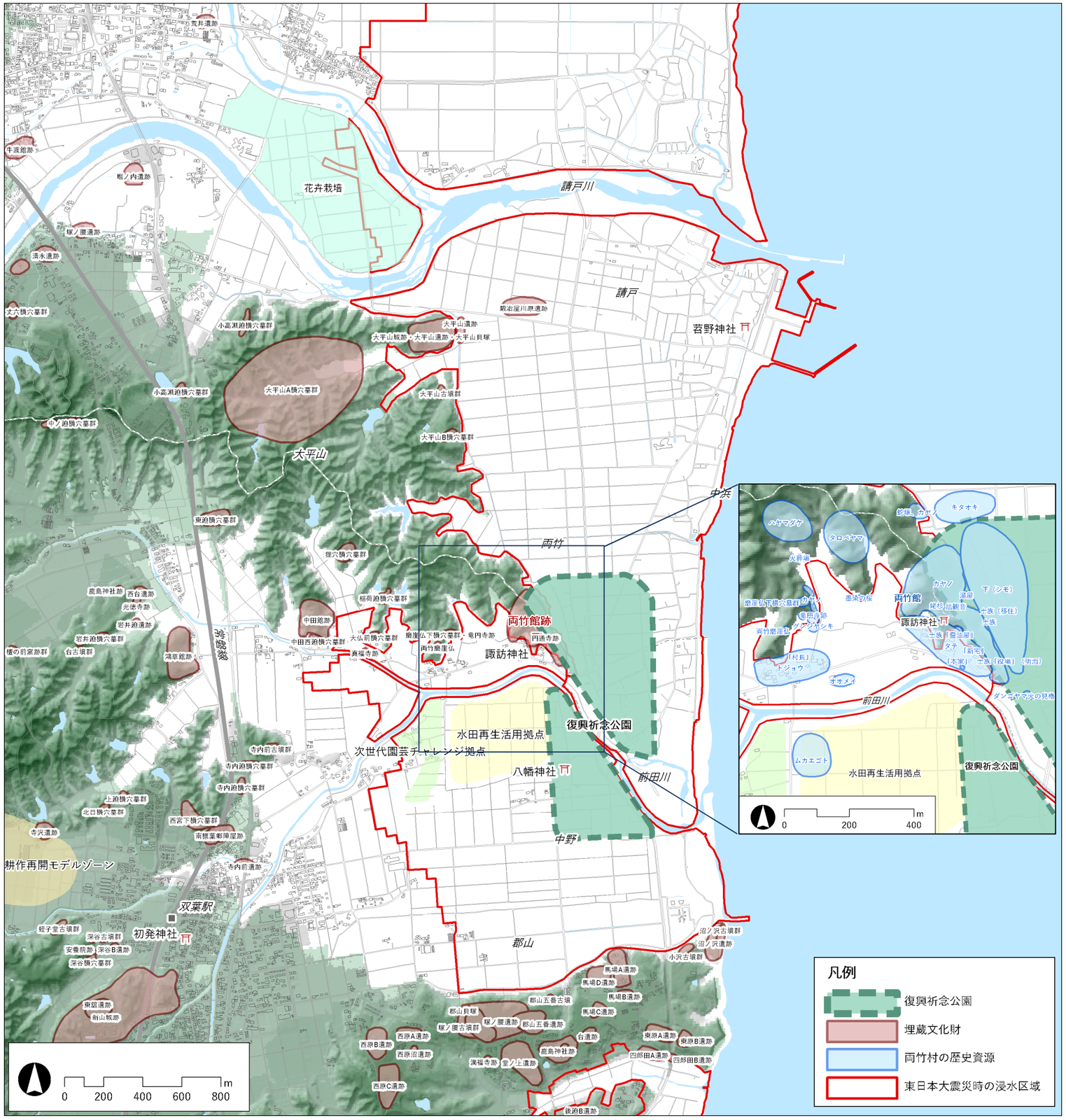
写真１　屋敷、土蔵等の歴史的資源

写真２　震災前の苕野神社（提供：浪江町）

写真３　苕野神社の安波祭での請戸の田植踊（提供：浪江町）
神社境内で神楽や田植踊を奉納し、御輿の行列が地区内を練り歩いたあと、浜辺に設けられた「お仮屋」に御輿が到着すると、改めて神楽や田植踊を奉納する。

写真４　苕野神社の安波祭での樽神輿の浜下り（提供：浪江町）

写真５　双葉町郡山の海岸で行われる双葉町長塚の初発神社の浜下り（提供：南相馬市博物館）



[図３ 資料]道路データ：国土地理院「基盤地図情報　基本項目」、建物データ：国土地理院「災害計画復興基図」、標高データ：国土地理院「基盤地図情報　数値標高モデル(5m メッシュ)」、浸水区域：国土交通省都市局「復興支援調査アーカイブ」、埋蔵文化財：福島県提供資料に基づき作成、泉田氏関連文化財：泉田邦彦氏資料（福島県提供）に基づき作成

図３　歴史、文化的資源分布

1）資料：「福島県遺跡地図 浜通り地方」（福島県教育委員会、平成８年３月）
2）資料：「安波祭」浪江町 H.P.
3）資料：野馬追の里原町市立博物館、千葉市立郷土博物館(平成 15 年)『相馬地方の妙見信仰 - 千葉氏から相馬氏へ - 』

【参考：公園予定地および周辺地域の地図】

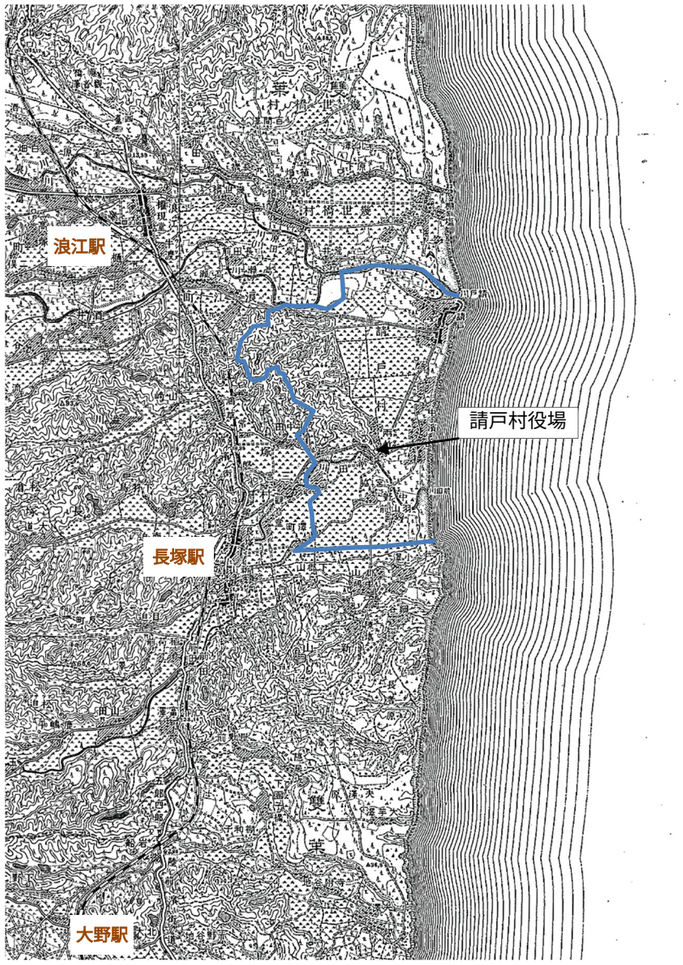


図　明治 41 年（1906）

図　：国土地理院発行 5 万分の 1 地形図謄本に執筆者加筆

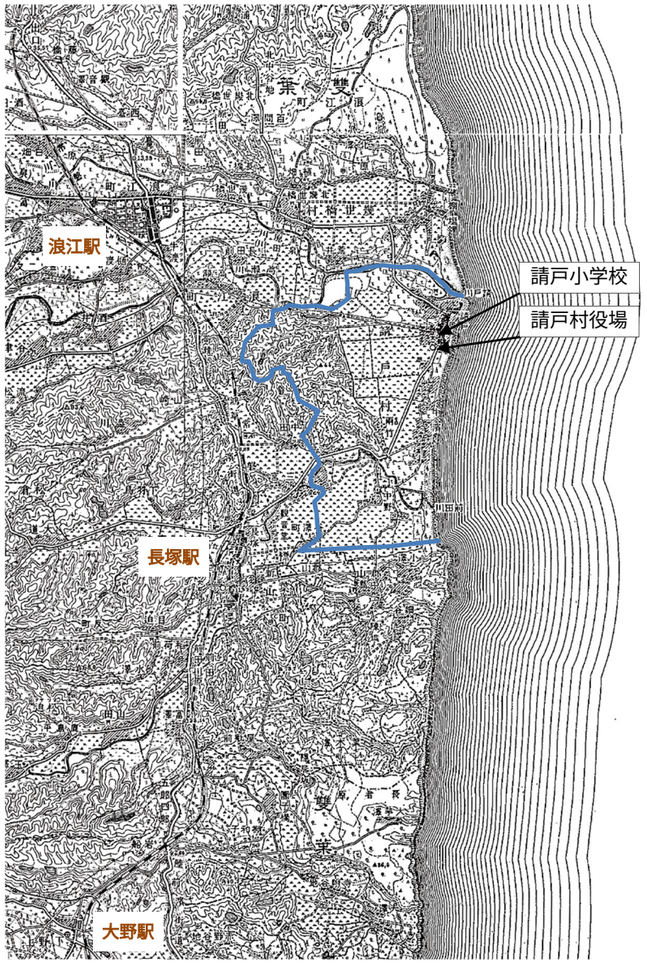


図　昭和 27 年（1952）

図　：国土地理院発行 5 万分の 1 地形図謄本に執筆者加筆

図　平成 23 年（2011）

図　：国土地理院発行 5 万分の 1 地形図

４．双葉町、浪江町復興まちづくりイメージ

＜双葉町＞

◆公園予定地南部の西側に隣接して中野地区復興産業拠点の整備を計画している。同地区ではアーカイブ拠点施設の整備が決定しており、その南には、復興祈念公園等への来訪者に対して、地場産品の販売や福島県の食材を活用した食事の提供等を行うサービス拠点となる産業交流センターの整備を計画している[1)]。（図５）

◆中野地区復興産業拠点と丘陵に挟まれた空間には、前田川右岸側に水田再生活用拠点、次世代園芸チャレンジ拠点、左岸側に再エネ発電拠点の整備を計画している[1)]。（図４）

◆双葉町は約 10 年後の町内居住者の目標を約 2,000～3,000 人程度としている。[1)]。

＜浪江町＞

◆公園予定地北側には、農地再生エリアが広がり、請戸小学校へと至る町道両竹請戸線に沿ってパークゴルフ場の整備を計画している[2)]。

◆請戸川河口部左岸側の東北電力用地には、雇用創出エリアとして、ロボットテストフィールド（離着陸試験用滑走路）の整備、エネルギー関連プロジェクト等、福島イノベーション・コースト構想に基づく事業の展開を想定している。また、高瀬川と請戸川の合流地点付近では花卉栽培用地の整備を計画している[2)]。

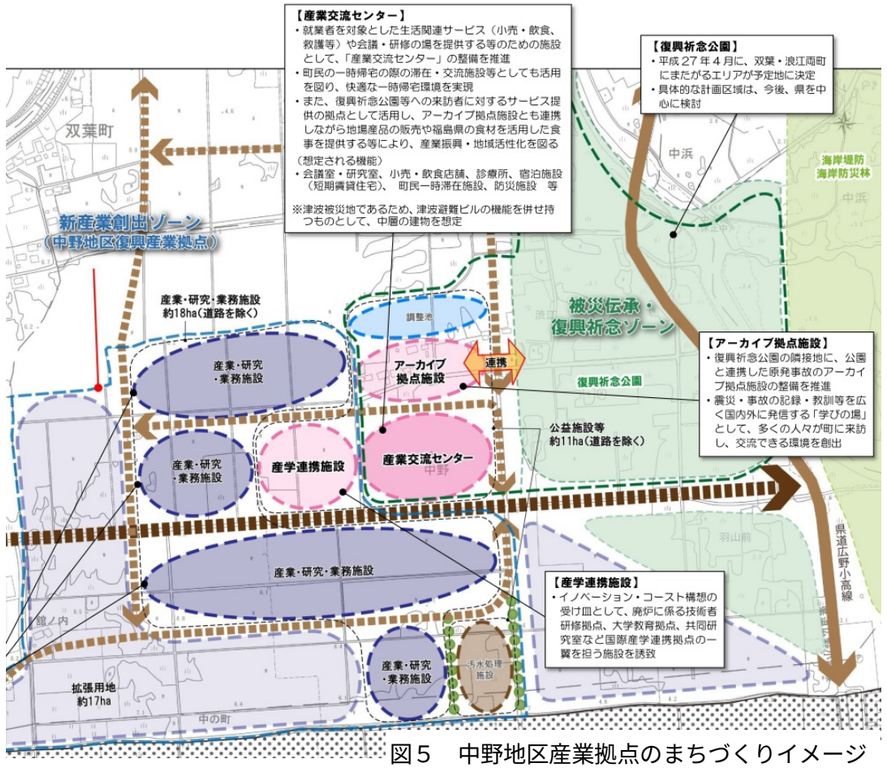


図５　中野地区産業拠点のまちづくりイメージ

出典：「双葉町復興まちづくり計画（第二次）」（双葉町、平成 28 年 12 月）

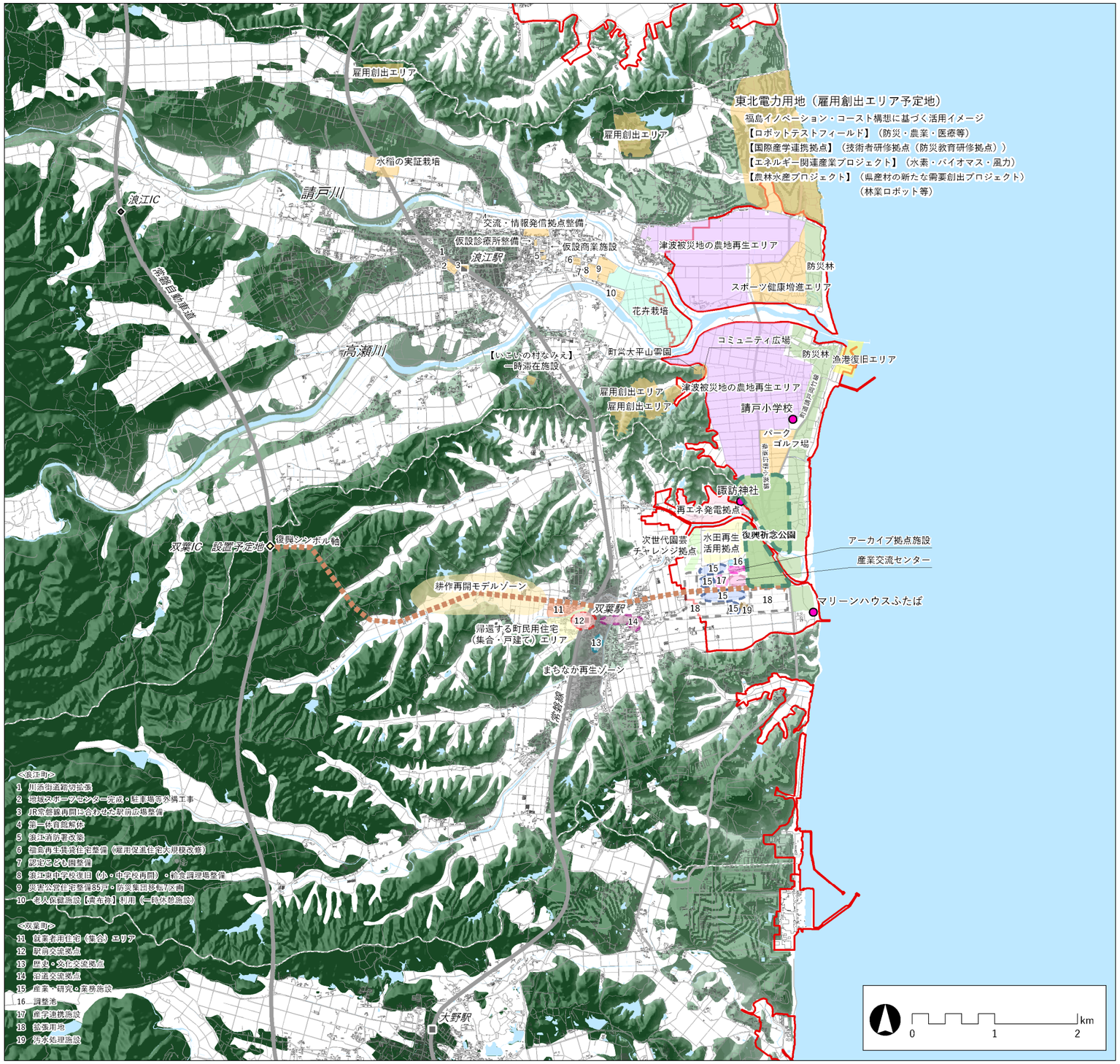


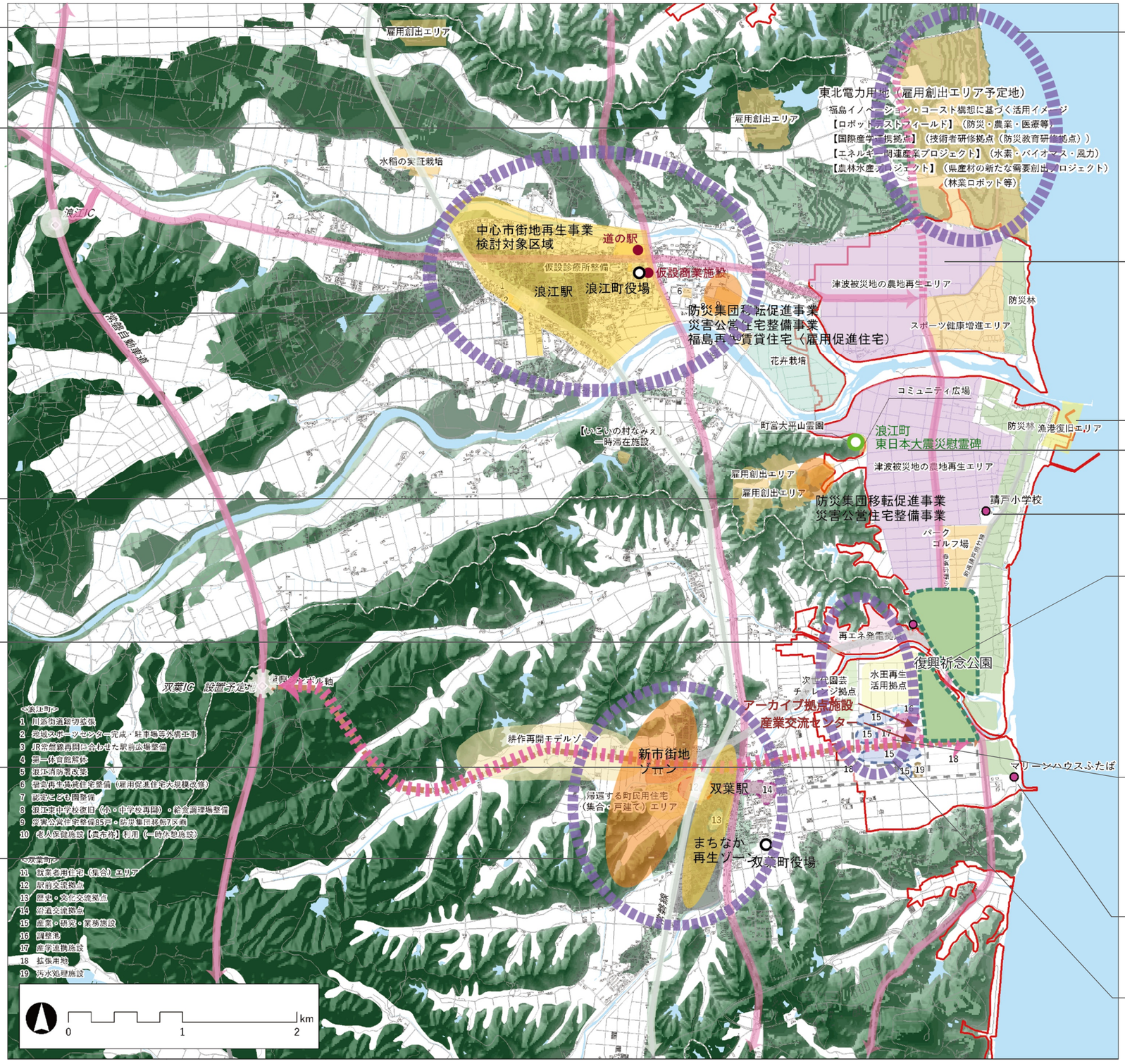
図４　双葉町、浪江町復興まちづくりイメージ

[図４ 資料]道路データ：国土地理院「基盤地図情報　基本項目」、建物データ：国土地理院「災害計画復興基図」、
標高データ：国土地理院「基盤地図情報　数値標高モデル(10m メッシュ)」、浸水区域：国土交通省都市局「復興支援調査アーカイブ」、
復興まちづくりイメージ：双葉町「双葉町復興まちづくり計画（第二次）骨子（案）」・浪江町「浪江町　まちづくり計画図」

1）資料：「双葉町復興まちづくり計画（第二次）」（双葉町、平成 28 年 12 月）
2）資料：「浪江町復興計画【第二次】計画編＜中間とりまとめ＞」（浪江町、平成 29 年 3 月）

参考　：　公園予定地および周辺地域における、まちづくりイメージ

生業
生業
暮らし
生業
追悼、鎮魂（各家庭等）
伝承（各家庭等）
生業
生業
暮らし
生業
追悼、鎮魂（各家庭等）
伝承（各家庭等）



生業
生業
生業
追悼、鎮魂
伝承
犠牲者への追悼と鎮魂
震災の記憶と教訓の伝承
復興に対する強い意志の発信
伝承、発信
伝承
次世代への継承発信

５．災害復旧、復興関連事業

◆海岸堤防、請戸川、前田川の河口付近の河川堤防の計画堤防高はT.P.+7.2mである[1)]。（図７、８、９）
◆海岸堤防の堤内側に隣接して、幅概ね 200mの防災林の整備を計画している[1)]。（図１０）
◆請戸地区、中浜地区の海岸部、両竹地区の丘陵東端部に隣接する低地において、防災集団移転促進事業の移転促進区域を定めている[1)]。（図６）
◆公園予定地の南側、双葉町の郡山地区には、中間貯蔵施設予定地が位置する。マリーンハウスふたばは同予定地内に位置する。（図６）

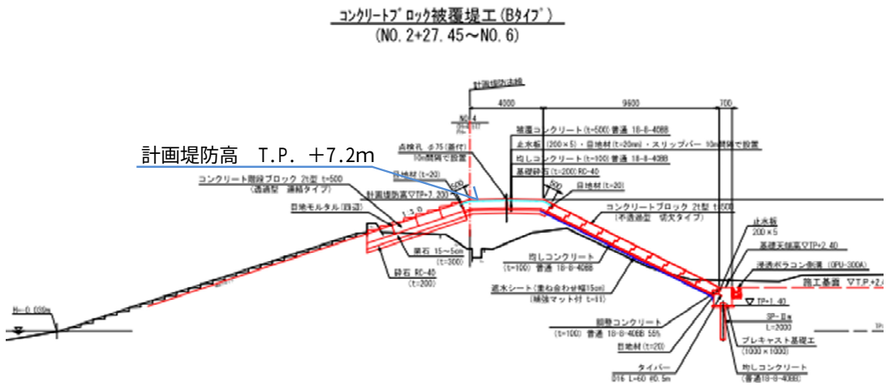


図７　双葉中浜地区海岸堤防標準横断図

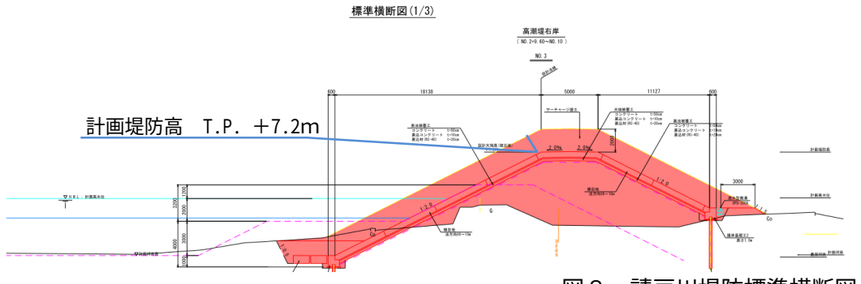


図８　請戸川堤防標準横断図

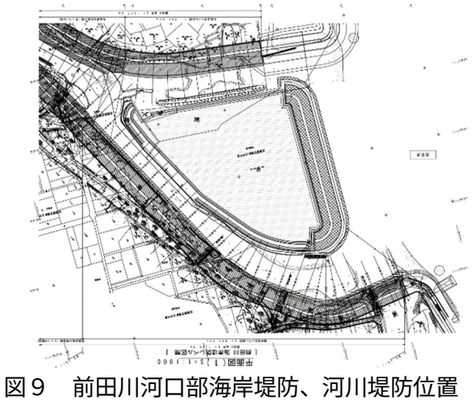


図９　前田川河口部海岸堤防、河川堤防位置

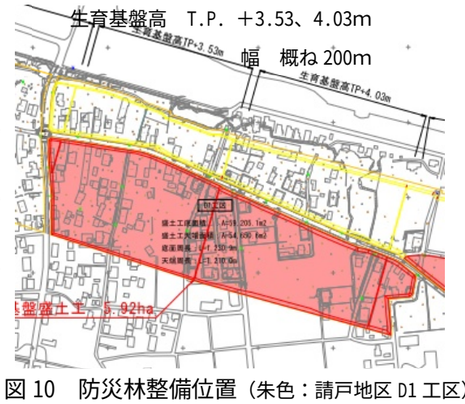
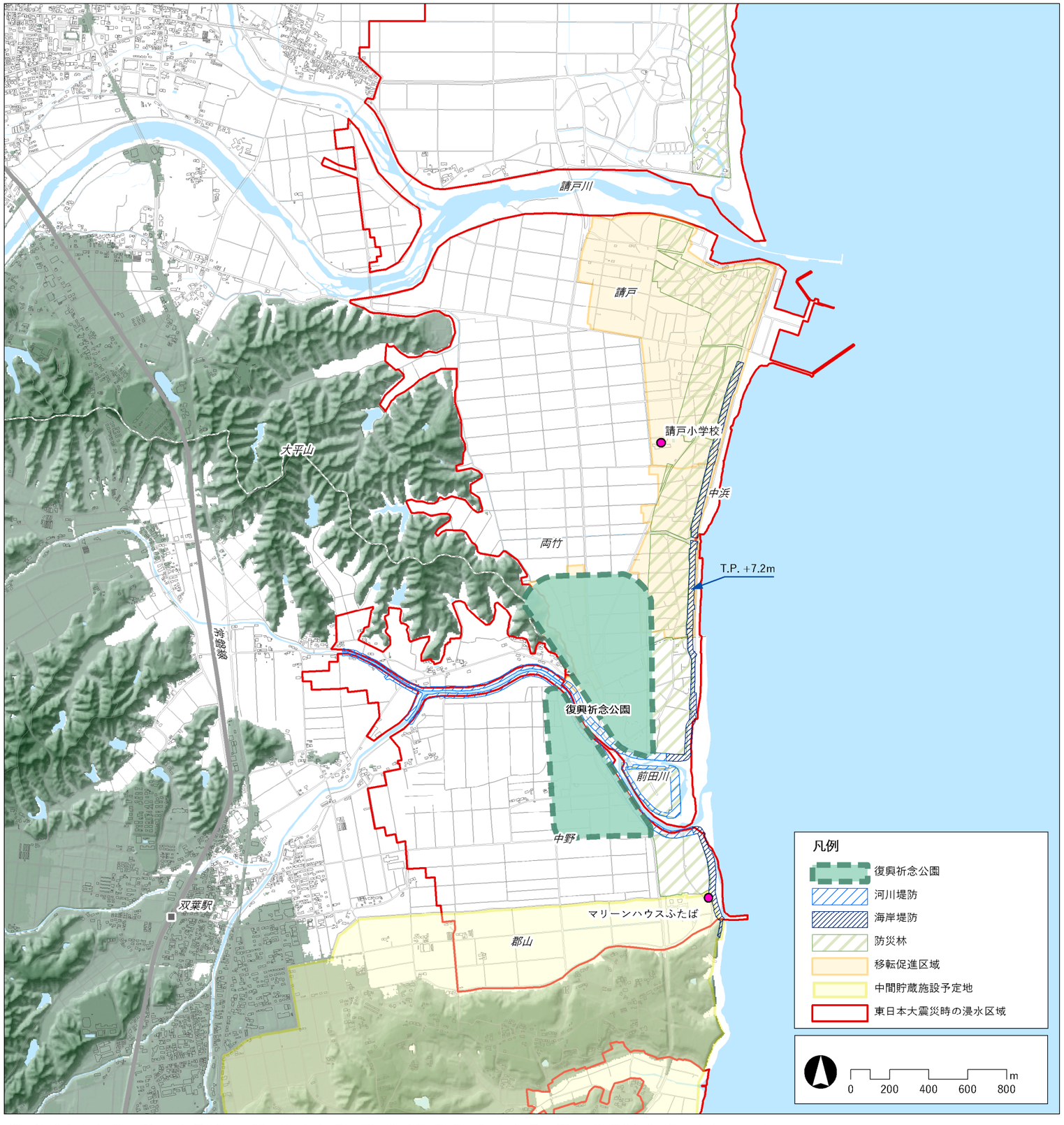


図 10　防災林整備位置（朱色：請戸地区 D1 工区）



[図６ 資料]道路データ：国土地理院「基盤地図情報　基本項目」、建物データ：国土地理院「災害計画復興基図」、標高データ：国土地理院「基盤地図情報　数値標高モデル(5m メッシュ)」、浸水区域：国土交通省都市局「復興支援調査アーカイブ」、災害復旧、復興関連事業：福島県提供資料に基づき作成

図６　災害復旧、復興関連事業

1）提供：「公共災害復旧工事図面抜粋」（福島県、平成 28 年 7 月時点）